

2013 年度活動予定

今年も、やれる人が、やれる時に、やってまいりましょう。

【現地レスキュー】

- 災害時における文化財・資料レスキューに、被災地の関係団体と協力して行う。

【クリーニング作業】

- 陸前高田市立博物館資料のうち、新聞等のクリーニングを行う。

【資料整理・保管】

- 宮城県農業高校同窓会所有図書資料の返還を夏までをめどに行う。
- 陸前高田市立博物館資料のうち、鳥羽源蔵資料の書籍・雑誌についての返還を本年中を目標に取り組む。
- 陸前高田市立博物館資料のうち、鳥羽源蔵資料の書簡・書類等についての整理を引き続いて行う。来年度中の返還を目標に取り組む。

【資料所在調査】

- 県内の資料所在調査を引き続き行う。上半期は大蔵村。
- まとまって資料の所在する施設の資料所在調査の手法を確立する。

【広報・普及活動】

- パネル展示などを行う。
- 適宜講演会などを行う。
- 報告、論文などの執筆をする。
- 文化財レスキューに関する理解や取り組みを推進する。

【研修活動】

- 被災資料の取り扱いやレスキュー方法についての研修をする
- 関係する会合やシンポジウムに参加して研修する。

【その他】

- 県内外で行われる文化財防災・レスキューのための募金のしくみをつくる。
- 取り組みの記録化を進める。

東北芸術工科大学における被災文化財の現況と今後の予定

東北芸術工科大学 米村祥央

1. 宮城県農業高校図書資料

全点クリーニングまで終了し、米沢短期大学で保管中

2. 宮城歴史資料保全ネットより依頼された大船渡旧家資料

乾燥は全て終了 順次クリーニングを進めているが春季休み中に宮城ネットへ返却予定

3. 陸前高田市

東北芸術工科大学で冷凍していた資料は乾燥まで終了し、順次クリーニングを進めている。12月から故障していた真空凍結乾燥機の修理が終了(修理費は全国美術館会議に半額負担していただきました)。

(株)山形丸魚内冷凍庫にて保管中の37箱(3パレット)のうち1パレット分を3月中旬に大学へ移動し、真空凍結乾燥を再開する予定。

※以上は山形ネットとしての活動になります。なお、本年度は木曜日午前中にこども芸術大学のお母さん(3名)と、山形のボランティア講座に参加された方(3名)にも作業をお手伝いしていただいています。

4. その他大学内での被災文化時レスキュー

4-1 宮城歴史資料保全ネットより依頼の本間家扁額など

応急処置(一部本格的な修復も実施)が東洋絵画修復ゼミの卒業研究と演習によって終了し、3月12日(火)に所有者へ返却した。

本作業については、企画展「レスキューの先へ～被災した扁額と屏風の修復と保存～」2012年12月20日(木)～22日(土)で紹介した。

4-2 石巻文化センター所蔵の美術品

平成23年度に引き続き、平成24年度も、学生の卒業研究の一環で応急処置を実施した。

※NHK日曜美術館3月17日AM9:00から放送予定の「故郷の海を彫った男 石巻の彫刻家・高橋英吉」の中で立体作品修復の藤原教授がインタビュー出演予定

会合／研修／事業の提起

報告者：小林貴宏

事業名：学校・公民館・文化施設資料調査のモデル事業参加について

開催日：2013年5月～

開催地：高島町

主催：高島町学校資料調査会（町教委ほか）

主な出席者：小林貴宏（報告者）

事業の主な内容標題：学校資料レスキューのための下見について

事業詳細：

中越地震、東日本大震災の資料レスキューで俄然と注目を集めたのは「学校、公民館」の資料群である。これらは地域の文書館であり、美術工芸品も多く収蔵されていることがわかった。

しかし、このことは既に宮城資料ネットが注目しており、宮城県内での調査とまとめを行っている。山形でも例のごとく宮城資料ネットの50%くらいの方でこのことに取り組んだらどうか、と考えている。

幸い、小林の勤める職場で学校資料調査を試みることになった。これを機会に山形ネットでモデル的に体験し、山形ネットスタイルの調査方法を模索し、より良い簡易な方法を得たい。その上で県内での取り組みを呼びかけたい。統廃合の進む今日、既に終わったところも含めてその対策は急務である。

また、これを機会に市町村教委や地元研究会に理解の輪をひろげたい。

今後の課題：

いろいろなものに挑戦してみましようよ。

その他：

資料等問合せ先：小林貴宏

会合／研修／事業の提起

報告者：小林貴宏

事業名：施設・学会・研究会の資料レスキューへの積極的にかかわりへの訴求

開催日：2013年4月～

開催地：県内

主催：－

主な出席者：－

事業の主な内容タイトル：山形県内における施設・学会・研究会への訴求

事業詳細：

山形の資料救済活動は山形ネットだけが担っているわけではありません。さまざまな団体個人の活動があり、職業的、ボランティアこれも様ざまです。しかし、その一方で、何も関わらない方が圧倒的です。人それぞれと言うことはできますが、具体的に文化財消失が進んでいることは否めません。

しかし、県内での取り組みは進んでいません。昨年度も課題にしました。2013年度こそ、しっかりと働きかけてゆきたいと思います。

(1) 県内の学会に案内を送る

(2) 地道な声かけをする（展示会、講演会の開催など）

(3) 具体的な問題提起を行う

を一つでも多く取り組みたいと思います。焼け石に水かもしれませんが、馬鹿にされること、黙殺されることもあるかもしれません。しかし、私たちの経験の筋道を事例に、具体的に、身近に方法を説明し、積極的に関わってもらえるようにしたいものです。

今後の課題：

具体的な行動計画が必要です。なかでも仲介者の存在が求められています。

その他：

資料等問合せ先：小林貴宏

平成 25 年度庄内銀行ふるさと基金応募

シンポジウム「山形の文化遺産を地震津波から守るために過去・現在に学ぶ」

開催内容

主催：山形文化遺産防災ネットワーク

共催(調整中)：公益財団法人致道博物館 東北公益文科大学地域共創センター

庄内考古学会 庄内民俗学会

目的：東日本大震災においては尊い人命や多くの財産とともに多くの文化遺産も破壊され被害を受けました。未だ復旧していません。現在、当ネットワークでは、地震津波で被災した歴史資料や書籍などの文化遺産をレスキューし保管やクリーニングして被災地支援を行っています。このような状況の中、もし山形県でも同じような規模の地震、とりわけ津波がきたら、山形の文化遺産をどのように助け出し守っていけるのか、いろいろな事例に学んでおく必要があります。

先般、山形県庄内地域の津波マップが公表されました。そのマップを大いに活用しながら、人命や文化遺産を災害から守るため、過去の災害事例、そして現在も進行形で続く被災地からの事例に学び、考え、そして山形での次の一步の見いだせる機会として本シンポジウムを開催します。特に、現在救済活動に参加している学生および若い世代から発表発言をしていただき、次世代が自ら動き、考え、次の災害に備え、また次の世代に伝えていけるような仕組みをつくるきっかけにしていきます。

注釈) 文化遺産とは有形無形の文化財、歴史的資料、風土、食文化など地域の歴史文化を表すものの総称です。

参加対象：山形文化遺産防災ネットワークの活動および本シンポジウムの目的に賛同してくださる方でしたらどなたでもご参加可能

開催場所：東北公益文科大学鶴岡キャンパス大学院ホールもしくは酒田市公益ホール

開催日時：2013 年 9 月頃の土曜日 (予定)

内容： 7:30 米沢女子短期大学から送迎バス出発 (芸工大・山大小白川を経由予定)

10:30 庄内津波被害想定地域 (鶴岡市域もしくは酒田市域) の巡検 (バス等で移動)

12:30 一時解散

13:30 シンポジウム開催

13:35 開会の挨拶

『過去に学ぶ』庄内における災害事例 (ほとりあ館長 植松芳平様) 【45 分】

14:20

『被災地に学ぶ』東日本大震災の事例 (岩手、宮城の被災地より) 【45 分】

15:05

『大蔵村における文化財調査』 (大蔵村熊谷様、田中大輔さん) 【20 分】

15:25

休憩

15:35

『現在に学ぶ』山形県下災害後の取り組み～山形文化遺産防災ネットワークの活動例

①概略：当ネットワークから【5分】

②活動拠点：東北公益文科大学からクリーニング作業【5分】

③活動拠点：山形大学からシンポジウム開催【5分】

④活動拠点：米沢女子短期大学からクリーニング後の整理作業【5分】

⑤活動拠点：東北芸術工科大学から山形におけるレスキュー作業【5分】

16:00

意見交換会：(冒頭に午前中の巡検の結果などを伝える)

17:00

閉会の挨拶

17:15

懇談会

18:30

庄内会場解散、バス出発

21:30

往路の経由地を経て、米沢女子短期大学到着解散

経費：	講師1名 旅費(盛岡～鶴岡)および宿泊費ならびに日当講師4名分	6万円
	学生ならびに若手発表者など交通費補助(バス運行) 内陸←→庄内移動	14万円
	資料作製費、調査費 他	5万円
	事業報告作成費、ちらし印刷費他	3万円
	会場設営および冷房代	1.5万円
	総額	29.5万円

山形文化遺産防災ネットワーク庄内メンバー(敬称略)

岩鼻通明(山形大学)、三原容子(東北公益文科大学)、酒井英一(致道博物館)、
矢口親斉(東北公益文科大学)、川島崇史(酒田市役所)、荘司勇(鶴岡信用金庫)、
手代木美穂(山形大学)